財団法人 中東調査会
The Middle East Research Institute of Japan
المعهد الياباني لبحوث الشرق الأوسط

かわら版

2007年4月11日
No.079

―東地中海地域ニュース―

ヨルダン：紅海・死海運河プロジェクト　（4月5日付「ヨルダン・タイムズ」）

1. 4月4日、世界銀行は紅海・死海運河プロジェクトが周辺諸国に与える環境及び社会的影響を調査する為、1,550万ドル規模のF/S（注：日本も200万ドル拠出している）に関し、国際的企業に入札参加を招聘した。

2. F/Sは、紅海・死海運河の環境及び社会的影響に関する調査、並びに包括的な可能性の調査の2分野に分かれ、企業側はそのいずれか、又は両方に応札が可能。又、落札企業は海水脱塩及びエネルギー供給の可能性についても調査を求められる。

3. 世界銀行によると、落札企業は2年以内に環境、経済性、技術的、社会的及び財政的な点を網羅したレポートを提出せねばならず、最終的な運河建設のコストは約50億ドルと予想している。

4. 紅海・死海運河プロジェクトは、主としてヨルダン川の水が農業及び工業用水に利用されることにより、年間1メートルずつ推移が低下している死海の消滅を防ぐ為の国際的努力のひとつである。　死海は、過去20年間だけで30メートル以上沈下しており、専門家は今後50年以内に干上がると警告している。

5. 提案されている運河は、ワーディ・アラバのイスラエルとの国境沿いに建設され、紅海から年間6億5千万立方メートルの水を死海に注ぎ、550メガワットの電力を供給するほか、年間8億5千万立方メートルの飲料水を供給する海水脱塩プラントの建設も含むもの。

6. しかしながら、環境学者や地質学者は、海水が混入することで死海特有のエコシステムが取り返しのつかない変化を起こすであろうと懸念を表明している。

7. 年間約5億立方メートルの水が不足しているヨルダンは、世界でも最悪の10カ国に含まれると考えられており、本プロジェクトが将来的なエネルギー及び水の供給に繋がるものとみている。

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。
ご質問・お問合せ先　財団法人中東調査会　TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799